ぽっかぽか

発行所
おぐに整形外科

小国町宮原1771-1
電話:0967-46-2121
www.oguni.ne.jp

第27号
（2005年11月）

千円札の肖像画はだれでしょう？

答えは、野口英世です。黄熱病を研究した医師として有名ですね。私も、小学生の頃、野口英世の伝記を読んで医師にあこがれました。しかし、小国郷の人であれば、野口英世より有名な医師を知ってますよね。

　答えは、北里柴三郎です。
北里柴三郎は、１８５２年１２月２０日、小国町北里で生まれました。寺子屋で学び、明治維新後熊本市に出て、熊本医学所病院に入学しました。
１８７５年（明治８年）２２歳で東京医学校に入学、卒業後内務省に勤務した後ドイツに留学しています。ここでコッホと出会い、コッホ研究所で本格的な細菌学の研究に従事しました。
　１８８９年破傷風菌の純粋培養に成功、翌年破傷風免疫体を発見して、血清療法の基礎を築きました。現在も、乳幼児に三種混合の予防接種を行っていますが、北里柴三郎の功績があって行えることなのです。また、この時代にジフテリアの血清療法についてエミール・ベーリングと共同研究をしていますが、この研究に対して後１９０１年にノーベル賞が贈られるのです。が、何故か受賞者はベーリングだけで北里は外れてしまいました。ノーベル賞は時々こういう不思議な選別をすることがあります。

１８９２年（明治２５年）に帰国後、福沢諭吉らの援助により伝染病研究所を設立しています。ここで野口英世も学んでいます。つまり北里柴三郎がいなければ、野口英世もいなかつたわけです。
　大正２年には日本結核予防協会を設立し、大正３年北里研究所を設立しています。大正６年慶応の医学部創設に伴い初代科長に就任し、大正１２年には日本医師会を設立して初代会長に就任しています。
１９３１年（昭和６年）６月１３日、東京麻布の自宅で７８歳で亡くなつています。
　この様に北里柴三郎を知れば、知るほど千円札の肖像画は、野口英世より北里柴三郎が良かったのでないかと思うのは、私だけではないと思います。みなさんも再度、郷土の偉人「北里柴三郎」を偲んでください。北里にある北里柴三郎記念館は、開館時間は朝９時から夕方５時になっています。ただし水曜日は休館です。入館料は、大人３００円、小中高生１５０円です。
次ぎの千円札の肖像画は、北里柴三郎に決まりですね。

知って得する生活情報！！

　季節の変わり目で風邪はひかれていませんか？朝起きると、布団をきてなくて風邪をひいてしまったなどという話はよく聞きますが、風邪の予防に効果的なのが日本茶、烏龍茶、紅茶などのお茶を使つた『うがい』です。お茶の成分カテキンには、殺菌効果があるため、風邪の時期は外出後の習慣にしてください。お茶をやや濃いめに煎れておくのがポイント。但し、お茶だからといって、うがいした後に飲み込んでしまっては意味がありません。必ず吐き出しましょう

知っているようで知らない？？〜診察券のお話〜

　毎回出している『診察券』はなぜ必要なのでしょうか？診察券にはカルテ番号、氏名、生年月日が書いてあります。これはカルテと来られた患者さんが一致しているか又、同姓同名の患者さんがいらつしゃる場合もありますので、生年月日まで確認するのに大切なものです。
　診察券を紛失してしまったという方多いと思いますが、こういつた意味があって発行していますので大事に保管し、毎回受付にご提示下さい。ご協力よろしくお願い致します。

『霜月』

　十一月のことを「霜月」と言われますが、旧暦では、この頃に霜が下りてくるという意味です。また、十月に出雲大社へ行つた神が神社に帰つてくるので、神帰月ともいわれます。ちなみに十月は「神無月」と言われ、日本中の神々が出雲大社（島根県）に集まる月なので、各地の神社に神がいなくなるという意味だそうです。出雲では神在月といいます。

「今月の俳句・川柳」

熱燗や
きのふのごとく
兵の日を
川津　勝視

中干しの
いびにたまりし
初時雨
田・　湧麓

大観峰
背中に名前
放牧牛

バーギ車を
押す友人の
背の丸さ
加祥チドリ

一期一会

約１年前、友人が沖縄へ移住した。「遊びに行く」と言い続けて、やっと行くことが決定したら、行く直前になって南大東島に台風発生。雨は降ったりやんだりで、風も前に進むのに抵抗を感じるくらい強かったが、友人は「この位の風はいつもの事」だそうだ。
　観光というよりは、ほとんど食い倒れツアーの如くひたすら沖縄料理を堪能。なかでも特に気にいったのが、ラフティ。ラフティは沖縄版豚の角煮で、豚の三枚肉を泡盛で４・５時間煮込むので脂も落ちてコラーゲンたっぷり。これをずっと食べ続けていたら、私もより美しくなるかな・・・と思わず真剣に考えてしまった。
　とにかく、食べ物の話をし始めるときりがないほど沖縄料理は美味しかつた。次に行く時はちゃんと観光しようかな・・あわよくば花婿の１人や２人捕まえて帰ってこようかと思う。
（笑顔いっぱい）

編集後記

「今月の俳句と川柳」ではみなさんが作る俳句や川柳を募集しております。どしどしお寄せ下さい！！ご意見、ご要望がありましたら、どしどしスタッフまでお気軽にお寄せ下さい。